令和5年度
新時代に対応した高校授業改革推進事業

宮崎県立小林秀峰高等学校
福祉科　遠藤千代子

「ICTを活用した授業」

～実践を通して学びを深める～

研究授業内容

「介護現場におけるレクリエーションの意義と役割」

仮説1・・・高齢者の心身の状況や状態を考慮したレクリエーション計画を立案し、実践することで、**高齢者が「楽しくなる・元気になる」ための考察を深め**、介護現場におけるレクリエーションの意義と役割を実感することができる。

仮説2・・・レクリエーション実施後、各施設の発表を通して、**学びをクラス全体で共有する**ことで、自らの学びを深めることができる。

期待する結果・・・レクリエーションが**生活の質の向上に繋がる**ことを知る。
学びの共有が、自らの学びを深めることを知る。

学びの流れ

レクリエーションの

意義と役割について学ぶ

レクリエーション計画の立案

（ICT活用・・・個人タブレットで内容検索）

介護現場での実施・振り返り

（ICT活用・・・Microsoft Forms ・

Microsoft Teams使用）

レクリエーション実施計画書（施設ごとに作成）

レクリエーションタイトル

ピンポン玉リレー

予定参加人数（スタッフ除く）	目安所要時間	会場レイアウト・人の配置
約30名	40分	ホワイトボード
実施予定日時	**場所**	
9月7日（木） 13時30分～	はなフロアー	

対象者

臥床の利用者以外

レクリエーションの内容（簡潔に）

・円になってもらい、紙コップを置く。　印をつけた紙コップからピンポン玉を回してもらい
・2回程度で合計で勝負を決める。　2分以内に何回できるか競ってもらう。

目的・ねらい

・細かい作業を行うことで脳の活性化を図ると同時に手指のリハビリにもなる。
・チームプレイによって協調性が深まる。

準備物

・ピンポン玉
・紙コップ
・赤いテープ

注意事項（安全面など）

・ピンポン玉が落ちたらすぐ拾う。
・手が上手く動かない方への配慮（声かけ）

反省・感想

始めはルールが理解ができず、もたついてしまったが途中から利用者どうしでチームプレーをしながら楽しくピンポン玉リレーができた。

レクリエーションタイトル

すいか割りゲーム

予定参加人数（スタッフ除く）	目安所要時間	会場レイアウト・人の配置
約30名	40分	ホワイトボード
実施予定日時	**場所**	記録　補助　補助　司会者
9月5日（火） 13時30分～	はなフロアー	

対象者

臥床以外の利用者

レクリエーションの内容（簡潔に）

・10人の利用者の前にすいかをおく。
・ぼうでたたいて割ってもらう。何回か繰り返す。
・30秒間で割れた個数を競い合う。

音楽 → わくわく感。
すいかを、1コ　コンテナの上に入れる

目的・ねらい

・麻痺のある方もない方もレクリエーションを楽しんでもらい、利用者同士の交流を図る。
・割れた個数を利用者が自ら集計することで脳が刺激される。
・スイカ割りを通して季節感を味わってもらう。

準備物

・ホワイトボード（施設）
・すいか10コ
・棒　10本
・ペン（施設）
・ラジカセ（施設）
・タブレット（施設）

注意事項（安全面など）

利用者同士の間隔を広くとり、ぶつからないようにすること。
転倒しないように配慮する。

反省・感想

自分たちが思っていたよりもスムーズに進行することができ、利用者も「もう一度したい」と声をいただいた。

レクリエーション準備（ICT活用①）

個人タブレットを使用して、
レクリエーションの検索、
メダルや賞状作成を実施。

・季節感を感じてほしい
・楽しみながらリハビリも兼ねたい
・ワクワク感を感じてほしい
・麻痺のある方、ない方、皆で楽しんでいただきたい
・脳の活性化になるように計算を取り入れる
・笑ってほしい
・車いす利用者でも参加しやすいようにしたい
・賞状やメダルは安全性を考慮する
・高齢者が認識しやすい色を使用する

◎生徒たちは、施設を利用している高齢者の皆様のことを考え、試行錯誤しながら準備を進めていきました。
◎計画の段階で、各施設の実習指導者に相談を行い、指導者のアドバイスをもとに考察していきました。

レクリエーションリハーサル

車いす利用者や片麻痺の方でも
参加しやすいレクリエーションを考察。

リハーサルを通して
タイムスケジュールや
内容を
調整していきます。

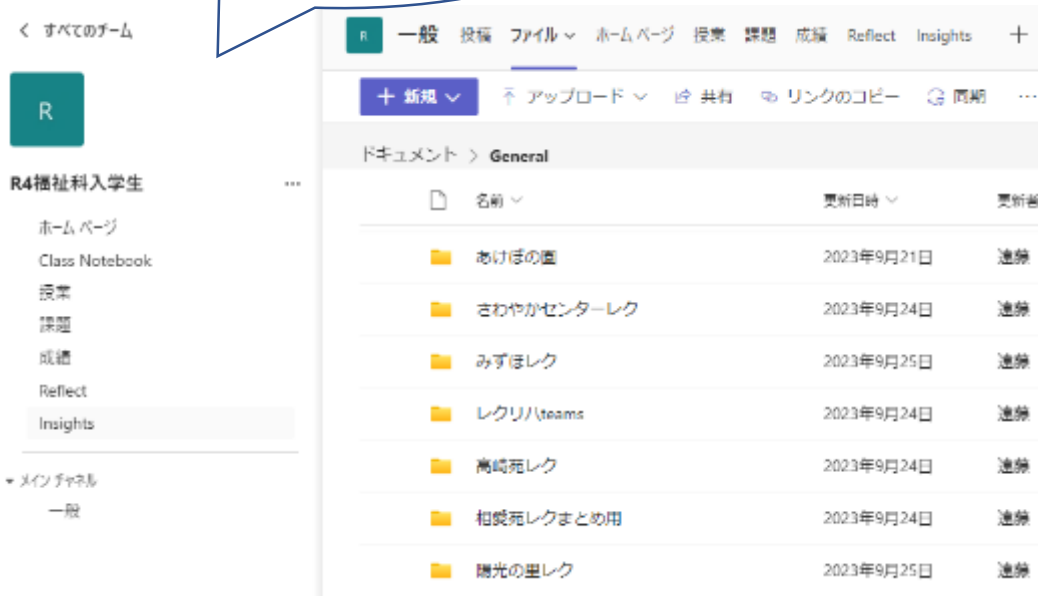
レクリエーション実践⇒振り返り⇒再度実践⇒反省会

何回か実践させていただき、
その都度、振り返りと手直し
を行っていきました

レクリエーションの振り返り（ICT活用②）

・個人タブレットを使用し、PowerPointで各施設のレクリエーション実践についてまとめる。
・各施設の編集作業は、Microsoft Teamsを使用し、メンバー同士で共有する。
・資料作成に必要な情報は、Microsoft Teamsを使用して共有する。
・発表は個人タブレットを用いて行う。

Microsoft Teams
共有画面



2022年度入学生よりWindows PC購入、
個人タブレットでPowerPointが作成可能。

振り返り後の自己評価、感想（ICT活用③）

・Microsoft Formsを使用し、自己評価と意見、感想のアンケートを実施

5. 他施設の報告を聞き、自分自身の学びが深まったか

詳細　インサイト

十分に深まった	16
まあまあ深まった	4
深まっていない	0

6. 介護現場におけるレクリエーションの意義とは？

- 利用者の意欲向上、残存能力の維持、普段の生活の中での楽しみを持つこと
- 身体能力の向上、機能維持、生活の質の向上、残像機能の向上
- 利用者とのコミュニケーションと身体機能の向上
- 身体機能維持をするために、生きていく上での楽しみを見出して頂くためにある
- 身体機能の維持、楽しみながら体の機能を低下させないこと
- QOLの向上、普段の生活の楽しみ、考えたりすることで脳が活性化すること
- 生活の質の向上につながるし身体機能の低下を防ぐため
- 楽しんでもらい、笑顔になってもらうこと、他の利用者と関係を深めること
- 普段は他者と関わりがないがレクで実習生や職員の方と関わり利用者に良い刺激になると思った
- 免疫を高め病気の事前の予防になる、脳機能の活性化、利用者の意欲向上
- 普段の生活の楽しみを持ち、また、考えたりすることで脳が活性化すること

「ICTを活用した授業」まとめ

「介護現場におけるレクリエーションの意義と役割」

仮説1・・・**高齢者が「楽しくなる・元気になる」ための考察を深める**

仮説2・・・**学びをクラス全体で共有する**

期待する結果・・・レクリエーションが**生活の質の向上に繋がる**ことを知る。

学びの共有が、自らの学びを深めることを知る。

まとめ

・ICTを活用することで、情報の取得や共有をスムーズに行うことができた。

・まとめのPowerPoint作成をする過程で、自らの学びを振り返ることができた。

・学びをクラス全体で共有し、発表を聞いたり、質疑応答を行ったりする中で、新たな気づきがあり、それが深い学びに繋がった。

「教科横断的授業」

「家庭科」×「福祉科」

～超高齢社会の担い手である自らの役割を知る～

研究授業内容

「移動支援を通して、自らの役割を考察する」

仮説1・・・他者へ教えるということを通して、自らの学びを深めることができる。

仮説2・・・教え方の工夫を考察することで、多面的に考える大切さを実感することができる。

期待される結果・・・主体的・協働的な学びが、

自らのスキルアップに繋がることを知る。

他学科へ教えることを通して、

福祉の魅力や可能性を再認識できる。

学びの流れ

移動の意義と目的、尊厳を保持した安全・安楽な移動介助について理解し、実践することができる（1年次）

授業計画（生徒が考察）

他者に伝えることで自らの学びを深める（ICT活用・・・Microsoft Forms）

授業計画考察の様子

必要に応じてメモを
取りながら手順を確認

体験授業に適した段差、距離など話し合い、
実際の場所で考察を行った。
考察の中で、福祉専門用語ではなく機械科の
生徒に分かりやすい言葉を使った方が良いと
いう意見が出て、共通理解を行った。

授業計画の完成

車いすの広げ方について

まず、八の字でシートを押します。
このときに、指や手を挟まないように押し込みます。

車いすの閉じ方について

まず、フットレストが上がっていることを確認し、シートを上に持ち上げて畳みます。

～坂道～

坂道を上る際、「上りますね」の声かけを行います。
上る際、太ももに当てながらゆっくり上がります。
坂道を下りる際は、手だけを使って下りるのではなく、
太ももに当てながらゆっくり下ります。また、「下りますね」の
声かけを行います。

段差について

上る

段差を上る際は、まず、ティッピングレバーを踏み、前輪を
段差にのせます。

振初、機械科にしてもらう。
↓
個人利用

～下りる～

太ももで支えながらゆっくり下ります。

小さい段差があるとき、
まずは声かけを行います。個人的に、段差を下りる際、太ももに当てながら
↳ ティッピングレバーを踏み、持ち上げながら、ゆっくり
下ります。

・段差を上るとき、

（車イスの広げ方）
- 手順（名称の説明）
- 広げる時の注意点
- 根拠を考えてもらう
- 根拠の正解を教える
- 乗る際の注意事項
- 動作ごとの説明

（・板材の手伝いを利用者にする（1年生だけ）
・体験させるようになったら、止める
・2年生が代動をし、利用者に1年生（1年生立ち）

・説明
・実践

（車イスの閉じ方）
- 手順
- 閉じる時はどこを持つか考えてもらう。
- 根拠を考えてもらう
- 根拠を教える
- 注意する事を教える

（坂道）

ゆっくり、ティッピング踏む

- 坂の上がり、下がりをしてもらう
- 二年生がおしえる
- 根拠を伝える（注意点）
- 体験してもらう

◎ 内容

- ゆっくり
- 太ももを使う（理由）
- 声かけ（・日常会話
・動作ごとの話

（段差）

- 段差のあがり、さがりをしてもらう
- 二年生がおしえる
- 根拠を伝える（注意点）
- 体験してもらう

◎ 内容

- ティッピングレバー
- 声かけ（・今から段差があるので上げます。
・体調確認
・なぜ動作をするのか
・1つ1つの動作報告

授業（導入）

福祉科と機械科のつながりを伝えるために、導入部分で福祉用具などを紹介。できる限り福祉を身近に感じ、機械科とのつながりが想像しやすいものを紹介した。

授業（導入）ICT活用

宮崎県内の福祉系県立高校5校に設置していただいているセンサー付きベッド。転倒を通知する機能については、その機能の特性にフォーカスした動画を生徒たち自身で作成。導入部分で使用した。（動画作成のためには、このベッドのことや、通知機能、データ転送など熟知しておく必要があり、知識が深まった。）

福祉工学分野で
あることを説明

授業（導入）

バイタルチェックは
Bluetoothでデータ
を自動送信

体温等の記録データを
受信・保存するアプリ

健康工学分野で
あることを説明

導入・・・機械科としての視点が高齢者のために役立つことを知ってもらう⇒教員主導
展開・・・実際に車いすに触れながら、移動支援の体験を行う⇒福祉科生徒主導

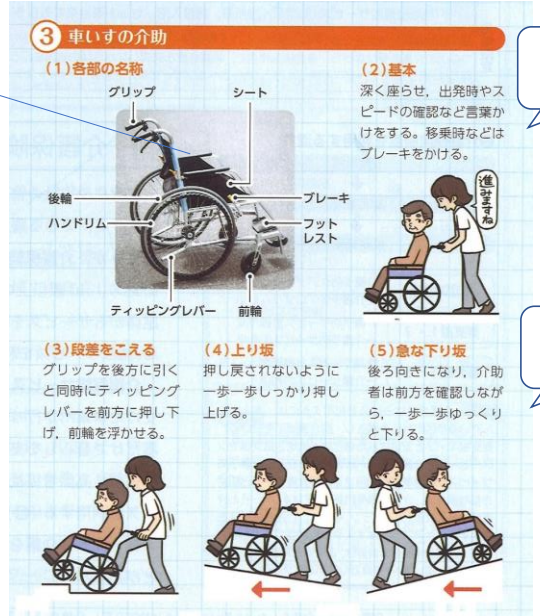
導入部分で福祉科と機械科の学びのつながりを伝え、
今回、紹介したもの以外にも多くの福祉用具やロボットがあることを伝えた。
興味を持って聞いてくれていた。
この後の展開部分では、家庭基礎の教科書を基にすすめた。

授業（展開）プリント使用

家庭基礎の教科書を基にした授業プリントを使用

車いすの介助　（家庭基礎 教科書 p67）

IM（　）番 氏名（　　）



アームサポート

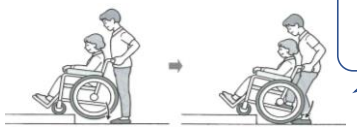
こまめに声かけをする

車いすの広げ方

スピードを出さないこと!

車いすの閉じ方

段差をおりる･･･後ろ向きで後輪を下ろし、ゆっくり後ろへ



ティッピングレバーを踏み、前輪を上げる

本日の授業振り返りはこちら ⇒

1M　家庭基礎×福祉科

授業（展開）

機械科の生徒達に
どのような言葉で伝えたら分かりやすいのか。
知識と技術を理解してもらうためにどのように体験を行うのか。工夫して取り組みました。

家庭基礎の教科書内容に合わせて、福祉科2年生が機械科1年生に、車いすの名称、使用方法など、実践を通して教える。

⇒他者へ伝えることにより、自らの学びを深める

振り返り（自己評価）ICT活用

機械科の振り返り

2. 車いすに関する知識を得ることができましたか

詳細

できた	34
できなかった	0

4. 福祉科と機械科の学びに関連があることを理解できましたか

詳細　インサイト

できた	29
まあまあできた	5
できなかった	0

振り返り（感想）ICT活用

機械科の振り返り

問い：車いす実習を終えての感想

・見てるだけだと簡単そうに見えるけど、やってみると少し難しかった
・会話が大事だと思いました
・車いすの運転が思ったよりも難しかったが、面白かった
・新しいことをたくさん学べたのでよかったです!!
・車椅子に乗せている人を不安にさせないことが難しかったです
・段差がある場合に後ろから行くことや坂道の時も後ろから行ったりするのが重要だなと思った
・太ももを使うことが重要だと知った
・車椅子に乗ってる時に思った以上に怖くて、少しの段差でも患者さんは不安になるんだなと分かりました
・機械と福祉の意外な関係があってびっくりしました
・車椅子に機械科的な要素があり、興味深かった
・とてもいい実習だったし、ただ車椅子を押すだけではないということを知りました
・いつか家族などに介護をする時が来ると思うので、今日学んだことを活かしたいです

振り返り（学びの深まり）ICT活用

福祉科の振り返り

問い：他学科が福祉を学ぶことの意義は？

・他学科が福祉を学ぶことで色々な人が福祉のことを知って、介護とか困った時に少しでも知識があれば困っている人が楽になるから
・互いに知識を深めることが出来るから
・専門ばかりではなく他職種で連携してこそ必要なものが出来上がるから
・高齢社会が進むこれからの日本を支えていける人が増えるから学ぶ意義がある
・他学科生徒が福祉に興味を持つことで、将来の福祉人材の確保に繋がるかもしれないから
・未来を担う若者が増えるかもしれないから
・もし身内に介護が必要になった場合に対応できるため
・将来に生かすためだと思う、福祉はどんな人にも関係ある事だから
・福祉の魅力について知ってもらえるから
・地域で協力して困っている人を助けるため

「教科横断的授業」まとめ

「移動支援を通して、自らの役割を考察する」

仮説1・・・他者へ教えるということを通して、自らの学びを深めることができる。

仮説2・・・教え方の工夫を考察することで、多面的に考える大切さを実感することができる。

期待される結果・・・主体的・協働的な学びが、**自らのスキルアップに繋がる**ことを知る。

他学科へ教えることを通して、**福祉の魅力や可能性を再認識**できる。

まとめ

・福祉科の生徒は「教える」ことを通して、機械科の生徒は「他学科との繋がり」に気づくことを通して、主体的な深い学びにつながっていた。

・生徒達は、実践を通して、他者へ伝えることの難しさを実感するとともに、そこに主体的に取り組むことで自らのスキルアップに繋がることも実感していた。

ご清聴ありがとうございました